横浜市立 稲荷台小学校　　令和4年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『自分とみんな いいな いいな 稲荷台』

【知】自分の考えをもち、自分の言葉で表現ができる子
【徳】互いのよさを認め合い、思いやりをもって、正しい行動ができる子
【体】健康な生活習慣を身に付け、すすんで運動に取り組む子
【公】地域とかかわり、地域を大切にする子
【開】豊かな創造力をもって、チャレンジし続ける子

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

	具体化した資質・能力
問題発見・解決力 言語能力	<問題発見・解決力> 低学年：好奇心　中学年：問題を発見する力　高学年：解決策を実行する力 <言語能力（対話力）> 低学年：感じたことを言葉にする力　中学年：伝える内容を明確にする力 高学年：伝え合うことで自分の考えを深化する力

中期取組目標

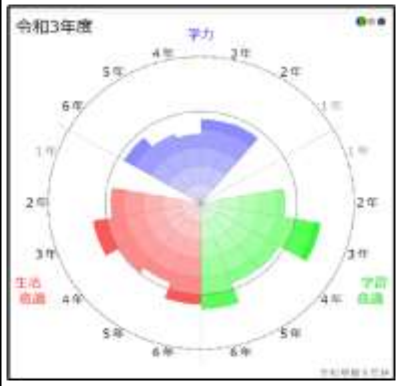
○系統性を重視し、問題発見・解決力、言語能力（対話力）を育みます
<問題発見・解決力>
低学年：好奇心がもてる課題を設定します。 中学年：課題を捉え、様々な解決方法を身に付けさせます。 高学年：目的に応じて解決方法を選択できる子を育てます。
<言語能力（対話力）>
低学年：話を集中して聞き、感じたことを言葉にして表現できる子を育てます。 中学年：互いの考えの共通点や相違点に着目して自分の考えが相手に伝わるように言葉を選んで話せる子を育てます。 高学年：様々な考えを関連付けながら、整理したり、まとめたりできる子を育てます。
○「次の100年へ」をスローガンに地域と共に活動をすすめます
・地域と連携した活動を通して、まちのよさや課題に気付けるようにします。・まちの人との関りを通して、コミュニケーション力を養い、まちの人々の取組を理解し、まちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
学習指導		①家庭学習の質の向上に努める。音読では、評価項目を設定し、保護者にも音読のねらいが分かるようにする。全校で作文ノートを準備し、思いを書いて表現できる機会をつくる。②家庭学習では、児童が課題を選んだり、課題を設定できるようにする。自学ノートを使い、自らが課題を決めて取り組むことで、学習意欲の向上を目指す。家庭学習やスキルタイムを通して、読む力、書く力、計算する力の育成を図る。③校内重点研究では、教材の価値や魅力を捉えさせながら子どもがこれまで獲得してきた知識、技能や考え方、解決の仕方を揺さぶるための教材研究、子ども一人一人の実態に応じた的確な学習支援ができる教材研究に取り組む。
担当	学力・評価研究部	

学力向上に関わる本校の状況

（1）学力の概要分析
学力は、全学年で市の平均を下回っているが学習意識や生活意識は市の平均を上回る学年もある。全体的に基礎・基本の学力が課題となっている。
（2）教科学習の状況
国語科：全体を通して、文学的な文章読解能力に課題がみられる。
算数科：全体を通して、数に関わる能力に課題がみられる。
社会科：社会的な思考・判断・表現の力が高い傾向がみられる。
理科：学年が上がるに連れて学習意識が高まる反面、学力が伸び悩む傾向がみられる。



今年度の目標

学習意欲のさらなる向上　基礎基本の学力の市平均到達

目標を実現するための具体的行動プラン

時期	行動プラン
上半期	○家庭学習やスキルタイムを通して、読む力、書く力、計算する力の育成を図る。 ○校内重点研の研究主題を「自ら学び続ける子どもを育てる～だれもが考えやすい授業を目指して～」と設定し、特別支援教育の視点から子どもが集中できる教室環境を整える。また、多教科における授業研究会や研修会とともに一人1～2回の公開授業を行い、教員同士で授業を見合うことで、個への支援や手立てについて理解を深め、日々の授業の授業力向上を図る。 ○教科分担制や専科制を取り入れ、一人の子をより多くの教師がみて、その子との信頼関係を築いていくことで児童理解を深め、子どもが安心して生活できるようにする。また、教材研究の効率性を高めることで、教師の負担を軽減するとともに、より教科の専門性を生かした授業を目指す。
下半期	○家庭学習では、自らが課題を決めたり選んだりすることで、家庭学習に主体的に取り組む態度を育てていく。スキルタイムは、習熟を図る時間と位置付け、ドリル学習等に取り組むようにする。これら二つの視点から、上半期の家庭学習、スキルタイムを振り返り、成果と課題をもとに工夫・改善を図る。 ○校内重点研の振り返りをもとに、ユニバーサルデザインの視点から普段の授業を見直していく。 ○運動会や音楽集会などの行事に合わせて、教科分担制や専科制、ブロックでの合同授業など、柔軟に取り組み、子どもの姿をより多くの教職員で共有していく。 ○市学習状況調査の個人番号を活用し、一人ひとりの経年での成長をみることで、今後の課題設定に生かしていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
人権教育		①学校生活目標に基づいた活動(よいところみつけ等)を行う。②児童の適正な自己評価力を高めるために、教職員は意識して児童の活動を価値付けする。③自尊感情を高める手立てとして、活動のねらいや内容をキッズレポートで隔月紹介し、保護者との共有を図る。④バディ活動を通年行い、異学年交流のよさを実感できるようにする。
担当	人権・児童指導部	

豊かな心に関わる本校の状況

(1)児童の実態
「どうせできない」「私なんか」等の言葉が児童から発せられ、各種アンケートからも自尊感情が低いと思われる結果が出ていた。

(2)昨年度の取り組み
昨年度、学校生活目標を「見つけ合おう・伝え合おう・高め合おう」に設定し、学校教育目標である『自分とみんな いいな いいな 稲荷台』と関連させて、"よいところみつけ"を全校一斉に行った。

(3)昨年度の成果と課題
友達から自分のよいところを見つけ伝えてもらうことは、児童にとってとても嬉しいことのようだった。しかし、最終目標の「高め合おう」のイメージ共有が教師間でうまくできておらず、そこが課題との反省が各学年からあがった。また、児童間だけではなく、教師が意識して児童の活動を価値付けることが、児童の適正な自己評価力を高めるのではないかという提案があった。

今年度の目標

個々の自尊感情の向上　お互いを認め合える集団づくり

目標を実現するための具体的行動プラン

時期	行動プラン
上半期	○「見つけ合おう・伝え合おう・高め合おう」という学校生活目標に基づいた自尊感情を高める活動を、昨年度の活動や学年の実態に合わせて始める。 ○児童の適正な自己評価力を高めるために、教職員は意識して児童の活動を価値付けする。 ○自尊感情を高める手立てとして、保護者にも協力してもらうため、活動のねらいや内容をキッズレポートで隔月紹介する。 ○コロナの状況下でも行えるバディ活動を実践していく。
下半期	○「見つけ合おう・伝え合おう・高め合おう」という学校生活目標に基づいた活動について、1月には「高め合う姿」が見られるような計画を調整する。 ○各教科の指導目標の達成を目指す中で、道徳教育との関連をふまえ、道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を養い、道徳性にかかわる実践的態度を養う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野		具体的取組
健康教育		①授業を通して、運動に親しみ自己の健康の大切さを認識できるようにする。体力テストなどから運動面の課題を把握し、体力向上1校1実践運動で、課題の改善に通じる取り組みを行う。②学校保健委員会では、引き続き体幹を鍛える取り組みや、柔軟性を高める取り組みを推進するための活動を行う。
担当	体力・健康増進部	

健やかな体に関わる本校の状況

(1)環境面
令和4年度より日課表が変わり、中休みが25分、昼休みがなくなった。中休みを有効に使って、体を動かす機会を作っていきたい。
感染予防のため、運動場や体育館の休み時間の使用に工夫が必要。また、教室や中庭など、せまいスペースでも行える体づくりの方法をさぐる必要がある。

(2)児童の実態
昨年、「100チャレ」で早寝早起き、朝ごはん に取り組んだ。どれも、多くの児童はできていた様子だが、学習状況調査の生活面の結果を見ると、睡眠時間の少なさや、テレビやパソコン端末を見ている時間の多さなど、気になる結果も出ていた。

コロナ3年目の学校生活。全校児童が自由に校庭で遊ぶ 経験が少ない。中休みもiPadを使って過ごしている時間が増えている？
視力低下がすすんでいる児童も目立つ。
ここ数年、体幹を鍛える動きや、柔軟性を高める運動、縄跳びやリズムジャンプなどの瞬発力、リズム感を養う取り組みを続けていて、子どもたちに定着しつつあるので、そこをうまく取り入れて、休み時間の活動を充実させたい。

今年度の目標

withコロナの環境下でも、体を動かす機会を減らさない

目標を実現するための具体的行動プラン

時期	行動プラン
上半期	○平成元年度から取り組んでいるガニがニ体操、くねくね体操を引き続き 全校で取り組み体幹を鍛える。体幹を鍛えることで、授業中の姿勢や集中力、離席の状況などの改善をはかる。 ○体力テストを分析して、本校の課題を明らかにした上で、課題改善のための運動を学校保健委員会等を活用して、継続的に取り組む。 ○狭いスペースでも楽しめるような運動を提案し、校庭や体育館が使用できないときでも、自然に体を動かして休み時間を過ごせるようにする。
下半期	○体幹を鍛える取り組み、休み時間の過ごし方の工夫を継続していく。 ○前期に取り組んできた活動をミニ体力テストやケガの件数などから評価し、計画の調整を行う。 ○休み時間の過ごし方を評価し、より具体的な取り組みを計画、実践していく。 ○前期に取り組んだ内容をさらに定着させるための方法を考え、実践する。